

2
0
目

「ジャパンスンドローム」克服を



第25回人間らしく働くための九州セミナーの2日目は30日、鹿児島市で開催されました。25周年記念の特別講座では、北海道大学環境健康科学研究教育センターの岸玲子特任教授が「公衆衛生の視点と女性の視点で人々の生活と健康と安全を考える」をテーマに登壇しました。

岸さんは、現在の日本を「かつてなく生まれついで、生きにくい国になっている」と指摘。非正規雇用が急速に拡大し、初職から女性では5割にも上ることを紹介、女性の収入が低く、税や保障の再分配政策が機能していないことなどが背景にあるとしました。

海外から「日本症候群」といわれる雇用不安や社会保障不安の状況の中で、などの問題が噴出する中、私

たちがどのような社会を目指すのかにも言及。「ジエnder視点の改革が必須」としました。同一労働同一賃金の実現や、パートタイム条約に批准することが急務だと述べました。

さらに、女性が高等教育を受け、社会進出を果たすことで、問題解決の一助になると訴えました。

シンポジウム「子どもの貧困」

コーディネーターに鹿児島生協病院の玉江末広さんが務め、小学校教諭の安村美代さん、弁護士の下之園優貴さん、生協病院の徳永正朝さん、社会福祉士の天羽浩一さんがパネリストとして登壇しました。

学校現場からは、保護者から面倒を見てもらえず、食事を与えられなかったり、高熱が出ても登校させられたりする事例や、一切子どもを外に出さず登校もさせないため、安否確認で何度も家庭訪問したりする例があることが報告されました。

「残念ですが、子育てできない親は確実にいます。子どもに関わらない親も少しずつ増えている。それでも、子どもを生んだ義務としてご飯だけは食べさせてあげて、といいたい。」 ご飯を食べていないため、痩せる子どももいるといえます。「肥満だけでなく痩せ



の調査もしてほしい」と訴えました。

生協病院の徳永さんは、臨床を通じて関わった児童や生徒の問題を紹介し「親の経済力が子どもたちの将来影響している」とし、親が持つ時間の減少にも問題の根深さを指摘しました。

分科会

特別講演のあとは、10のテーマに分かれて参加者からの報告と白熱したディスカッションが行われました。詳細は報告集でご確認ください。



【訂正】現地実行委員会ニュース2号の九州セミナー賞の受賞団体に誤りがありました。生協労連九州司法連合会とあるのは、生協労連九州地方連合会でした。お詫びして訂正します。

次回、第26回人間らしく働くための九州セミナーは佐賀県で開催します!



第26回セミナー現地実行委員長の東島浩幸さん
(佐賀中央法律事務所)

○8年前の大会以上に人間らしく働く状況は悪くなっている。学ぶ・調査する・報告するといった活発なとり組み刺激を受けて、次回、前進できるよう現地実行委員も様々な団体と力を合わせて準備していきます。



2日間にわたり司会を務めてくださいました馬場さん(鹿児島県医労連)と福丸さん(コープかごしま労組)です。

スムーズな進行のおかげで無事にセミナーを終えることができました。

本当にお疲れ様でした♪

ちなみに・・・ニュースのタイトル「おやっとさあ」は鹿児島弁で「お疲れさま」という意味です。ご存知でしたか??

参加者のみなさん2日間本当に“おやっとさあ♪”でした!!

第25回

人間らしく働くための九州セミナー はじまる

ブラック企業問題とは何か？

第25回人間らしく働くための九州セミナーは11月29日、502人が参加し、鹿児島市で始まりました。開会式では、田村昭彦代表世話人会議長があいさつ。セミナーの25年の歩みを振り返るとともに、現代を取り巻く過酷な労働環境を挙げ、「新しい制度を考えていくべき」と提案。今こそ人間らしく働ける職場や地域を目指すべき」と述べました。



記念講演では、首都圏青年ユニオンの青年非正規労働センター事務局長の河添誠さんが登壇。「ブラック企業」問題の本質とは何か？をテーマに、若者の労働実態を明らかにしました。

名ばかり管理職の正社員の青年が年収300万円台で長時間労働を強いられ、うつ病に追い込まれた事例を紹介。ブラック企業が増加している背景には、非正規雇用でワーキングプアになるのを恐れ、辞めたくても辞められず「何とか頑張ろう」とする労働者が存在することを指摘しました。そのうえで、ブラック企業を名指して批判すること以外にも、「まっとうな労働市場」を構築する必要を訴えました。社会保障と労働運動を結合させ、労働環境の底上げを図る動きの重要性を語りました。

九州セミナー賞の発表もあり、計6団体に表彰状が贈られました。受賞団体は次の通り（敬称略）。【九州セミナー賞】▽北松じん肺弁護団、筑豊じん肺弁護団、伊王島じん肺弁護団、三池じん肺弁護団、三菱長船じん肺弁護団、トンネルじん肺弁護団、九州建設アスベスト弁護団▽九州建設交労全国労災職業病部会九州ブロック▽生協労連九州司法連合会▽長崎労働者の健康問題懇談会▽全日本民主医療機関連合会九州・沖縄地方協議会（九州セミナー特別賞）全国過労死を考える家族会



取材班にご協力をお願いします！

パネルディスカッション

社会に広がる深刻な労働実態
人間らしく働くために



記念講演に引き続き開かれたパネルディスカッションは、「ブラック企業社会における働く人びとの健康権」をテーマに6人が登壇しました。

鹿児島県労働組合総連合の平良行雄事務局長は、県内の企業で起きた事例と対応例を報告。社長の借金を肩代わりした例や、労働者に過大な罰金を科すコンビニ二店の実態がありました。

介護施設で勤務経験のある北原輝さんは、職場環境改善を目指し、労働組合を結成した経緯を発表。ほとんどの職員が加盟したものの、理事会「攻撃」に遭った経緯を赤裸々に語りました。

鹿児島民医連の国分生協病院の山下義仁医師は、医療現場から見た過密労働の実態を紹介。病気になった労働者の症例や生活実態対処法を報告しました。

全労働相労働組合の森崎巖さんは、労働相談件数でトップだった「いじめ・嫌がらせ」はここ15年ほどで表出してきた問題だと指摘。成果主義で、仲間を気にする余裕もなく、企業も労働力をコストとみなす働かせ方があり、人間関係の希薄化が背景にあるとしました。

鹿児島県立短期大学の朝日吉太郎教授は、日本の労働条件、そもそも異常だとしたうえで、諸外国との勤務時間や休日数、所得を比較。日本の企業社会がブラック企業の体質があることを指摘しました。

パネラー同士のやりとりでは、「労働基準監督署の職員数が少ない」ため、ブラック企業の実態調査が進まないといった意見や、労働組合の存在は「不可欠」としながらも、企業から自立し、企業横断的労働市場を管理できる組合の設立を目指すべき、との声もありました。

ほかに、成果主義や雇用の流動化について触れ、問題点が指摘されました。

「ブラック企業の克服」を図るための方策として、山下医師からは、身体の変調が業務内容と関連していないか、働き方に問題がないかなど、問診で把握するなど病院全体としてのシステムをつくる必要性が述べられました。

平良事務局長も企業体質を変えるため、「労働組合の結成」を挙げ、相談しやすい窓口づくりを目標としました。森崎さんは、労働環境の改善に「職場のガイドラインづくり」を進めたり、労基法や監督署の活用を求めました。

明日は、8時30分から「公衆衛生の視点と女性の視点で人々の生活と健康と安全を考える」をテーマに、岸玲子さん（北海道大学特任教授）の特別講演でスタートです。

時間には遅れないように鹿児島の夜を堪能してください♪

おやつとさあ

働きがいのある人間らしい仕事 すべての人にディーセントワークの実現を



1日目最後の総括講演は「まっとうな働き方」ディセント・ワーク」をテーマにILO（国際労働機関）駐日代表の上岡恵子さんが登壇しました。30年間国内外で勤務をした経験から、先進国に比べると日本の優良企業の働き方は必ずしもディセント・ワークではない、と指摘。「日本の仕事の世界にあるべき姿はどこにあ

るのか」というビジョンを持たなければ、実践に結び付かない、と述べました。上岡さんは、ILOの宣言やディセント・ワークの4つの戦略目標などを紹介。そのうえで、無駄な残業や休日を取らないなど、日本の職場文化を変えていかなければ「次の30年、50年変わらない」とし、まずは管理職から意識を変える必要性を訴えました。

「30年ぶりに日本に帰ってきたら、みんながフラッシュレションをためている。偏差値で子どもを育てるような、職場でも正規と非正規で優劣をつけていないか」と問題提起。「今までの概念は横に置いておいて、みなさんがどんな仕事にしたいのか考えて」と呼び掛けました。

盛り上がった交流会



総括講演終了後には、会場をサンロイヤルホテルに移して交流会を開催しました。

交流会は、九州セミナー賞を受賞した各団体のあいさつの後、副実行委員長長の橋元高博の発声で乾杯。各地域の参加者からのあいさつもあり、それぞれの近況などを報告し合いながら親交を深めました。 鹿児島島の夜は楽しめましたか??



参加者の声

○仕事を辞めたくても辞められない状況があることに驚いた。自分の周りにも同じような実態があるのではないかと。

○海外のマクドナルドでの行動に感銘を受けた。みんなで声を上げ、行動を起こすことが大事。

2
0
目

「ジャパンスンドローム」克服を



第25回人間らしく働くための九州セミナーの2日目は30日、鹿児島市で開催されました。25周年記念の特別講座では、北海道大学環境健康科学研究教育センターの岸玲子特任教授が「公衆衛生の視点と女性の視点で人々の生活と健康と安全を考える」をテーマに登壇しました。

岸さんは、現在の日本を「かつてなく生まれつらく、生きにくい国になっている」と指摘。非正規雇用が急速に拡大し、初職から女性では5割にも上ることを紹介、女性の収入が低く、税や保障の再分配政策が機能していないことなどが背景にあるとしました。

海外から「日本症候群」といわれる雇用不安や社会保障不安の状況の中で、などの問題が噴出する中、私

たちがどのような社会を目指すのかにも言及。「ジエnder視点の改革が必須」としました。同一労働同一賃金の実現や、パートタイム条約に批准することが急務だと述べました。

さらに、女性が高等教育を受け、社会進出を果たすことで、問題解決の一助になると訴えました。

シンポジウム「子どもの貧困」

コーディネーターに鹿児島生協病院の玉江末広さんが務め、小学校教諭の安村美代さん、弁護士の下之園優貴さん、生協病院の徳永正朝さん、社会福祉士の天羽浩一さんがパネリストとして登壇しました。

学校現場からは、保護者から面倒を見てもらえず、食事を与えられなかったり、高熱が出ても登校させられたりする事例や、一切子どもを外に出さず登校もさせないため、安否確認で何度も家庭訪問したりする例があることが報告されました。

「残念ですが、子育てできない親は確実にいます。子どもに関わらない親も少しずつ増えている。それでも、子どもを生んだ義務としてご飯だけは食べさせてあげて、といいたい。」 ご飯を食べていないため、痩せる子どももいるといえます。「肥満だけでなく痩せ



の調査もしてほしい」と訴えました。

生協病院の徳永さんは、臨床を通じて関わった児童や生徒の問題を紹介し「親の経済力が子どもたちの将来影響している」とし、親が持つ時間の減少にも問題の根深さを指摘しました。

分科会

特別講演のあとは、10のテーマに分かれて参加者からの報告と白熱したディスカッションが行われました。詳細は報告集でご確認ください。



【訂正】現地実行委員会ニュース2号の九州セミナー賞の受賞団体に誤りがありました。生協労連九州司法連合会とあるのは、生協労連九州地方連合会でした。お詫びして訂正します。

次回、第26回人間らしく働くための九州セミナーは佐賀県で開催します!



第26回セミナー現地実行委員長の東島浩幸さん
(佐賀中央法律事務所)

○8年前の大会以上に人間らしく働く状況は悪くなっている。学ぶ・調査する・報告するといった活発なとり組み刺激を受けて、次回、前進できるよう現地実行委員も様々な団体と力を合わせて準備していきます。



2日間にわたり司会を務めてくださいました馬場さん(鹿児島県医労連)と福丸さん(コープかごしま労組)です。

スムーズな進行のおかげで無事にセミナーを終えることができました。

本当にお疲れ様でした♪

ちなみに・・・ニュースのタイトル「おやっとさあ」は鹿児島弁で「お疲れさま」という意味です。ご存知でしたか??

参加者のみなさん2日間本当に“おやっとさあ♪”でした!!